

JSCE Magazine

Civil Engineering

土木學會誌

Vol.96 no.8 August 2011

特集
産官学一体で世界に拡げる
日本のインフラ技術と標準化戦略

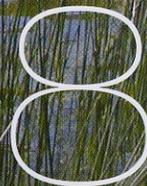
震災特集 東日本大震災
— 津波と地震動による被害 —

トピックス
日本のプレゼンスを高める技術協力と今後の展望

付録
土木学会 平成23年度定時総会(通算第97回) 報告

この人に聞く
農業者大 教育指導専門職
末永 聡さんに伺いました

2011



英国の土木風景 ⑤

産業革命、バクス・ブリタニカを経て、今もなお世界の文明をリードし続ける国、イギリス。その国土に広がる誇り高き土木風景が発信するメッセージは、今もなお世界中の人々の心に強く響き続けている。



◀ Houghton Mill (ホートン・ミル)

ホートン・ミル [ケンブリッジ州ホートン]

Houghton Mill
[Houghton, Cambridgeshire]

文・写真：岡田 昌彰 OKADA Masaaki

英国に数多くある“絵になる産業遺産”の中でも、この水車小屋は傑出した存在である。水量豊かなウーズ川の中島という絶好の位置。コルタル塗の下見板と赤煉瓦からなる秀麗な外観。幾重もの屋根を構えた特徴的なシルエット。17世紀の竣工から現代に至るまで、このホートン・ミルは風景画家や写真家たちを大いに魅了し続けてきた。

その牧歌的な姿とは対照的に、水車小屋で働く村民と所有者であるベネディクト修道院との間には大きな争いもあった。水量確保を目的として修道院が設けた堰が豪雨時に村に大洪水をもたらし、高額の水車使用料に以前から不満をもっていた村民の怒りが爆発、一同結集し力づくで堰を破壊してしまう。裁判の末15年後に村民が勝訴し、洪水時の水門開放権を勝ち取ることで事態は収拾した。

1930年の操業停止後、ナショナルトラストによって44年間ユースホステルに転用され、博物館となった現在は復元された水車がふたたび小麦を挽き続けている。絵画の如き風景の中に設えられたテーブルにて味わう、挽きたての小麦粉を使ったスコーンと紅茶は格別だ。本質を維持しながらも、使えそうな価値は多少アレンジしてでも徹底的に使う。まさに英国らしい産業遺産の巧妙な活用法である。



環境にやさしい大豆インクを使用しています。



<http://www.jsce.or.jp/journal/>